



みどりの風

令和元年7月1日発行

校報 第565号

(みどりの風 第108号)

練馬区立関町北小学校

安全で、楽しい夏休みを

校長 大野 泰弘

7月になり、子どもたちが楽しみにしている夏休みが近づいてきました。私が子どものころは、今よりも友達と遊ぶ場所も、時間も多くとることができたのではないかと考えています。それでも、一日をどのように過ごすかを書き表す日課表のような宿題があり、計画的に時間を過ごすことが求められたので、午前10時までは外に出ることはできませんでした。

天気がよい日には、友達と約束をするというよりは、あの広場に行けば誰かがいるという感じで、何人集まっているかによって、何をして遊ぶかが決まる、というあまり計画的ではない遊び方でした。野球をしている子はいましたが、現在のように、サッカーやテニス、あるいはバスケットボールなどを習っている子は、私の知る限りではいませんでした。ですから、ボールと言えば、ゴムボールで、遊ぶ前には、空気を入れて、二つのポケットに押し込んで、遊ぶ場所に持っていきました。野球ができるだけの人数が集まっていれば、階段野球(攻撃する側が階段の角にボールを当てるもの)や三角ベースなどをしましたが、それができないときは、路地で缶蹴りをしたり、アスファルトの道路でチェーンリングをある程度まとめて当てっこをしたり、学校でドッチボールを借りて、がんばこ(地面に「田」の字を書いて、4分割し、それぞれに階級を設けて、ボールをバウンドさせながら、上の階級をめざして競い合う遊び)に興じたりしていました。

近所で遊んでいるときに、ボールがどこかの家の庭に入ってしまったときなどは、誰が取りに行くかを相談したり、どのように謝ったらいいかを話し合ったりして、ときには叱られることもありましたが、今思えば、親同士、ご近所付き合いをしていたはずですから、私たちの知らないところで、いろいろなフォローがされていたのでしょう。

友達と遊んでいる時には、当然のことながら、楽しいことばかりではなく、多少のいさかいもありました。チェーンリングをしているとき、相手の投げたものが当たったかどうかをどう判断するか、ある子が勝ち過ぎてしまったら、チェーンリングをとられた子に返すか返さないか、どうしたらよいかを相談したり、他の遊びでも、下級生が「一緒に遊びたい」と言ってきたら、どのように接していくかなどを話し合ったりしたことを思い出します。

大人から見れば、他愛のないことを子どもなりに真剣に考えていたのかもしれないと振り返ることができますが、自分が遊んでもらったり、遊んであげたりということを繰り返しながら、遊びを通して学んだことが多かったのだらうと思います。友達との遊びの場で解決できなかった時は、自宅は自営業でしたから、帰ってから家族に相談することもなく、部屋の天井を見ながら一人で解決策を考える、そんな日もあったことを覚えています。

私には、このような遊びとのかかわりが深い、遠き日の夏休みでしたが、本校の子どもたちには、今年度も充実した夏休みを過ごしてくれることを願っています。しかし、今年の夏休みに、子どもたちに不便をかけてしまうことがあります。それは、この夏、学校は校舎改築工事の一環で、完成した仮設校舎への引っ越し作業が行われることにより、通常のように、校庭開放をして、子どもたちに遊ぶ場所を提供することができないということです。それにより、昔のように広場があるわけではありませぬので、子どもたちの遊び場としては、近くの公園が利用されることが多くなると思います。

道路は危ないので、そもそも遊び場には不向きですが、公園には、小学生だけでなく、未就学の子どもたちや乳児を連れた方も集まってきます。子どもたちには、自分たちの遊びを充実させ、そこからいろいろなことを学んでほしいと思いますが、その周りには、いろいろな人が利用していることも心に留めながら、ルールやマナーを守り、互いに譲り合って、楽しく安全に遊んでほしいと思います。校舎改築により、子どもたちに不便を強いることになっているのですが、保護者、地域の皆様には、子どもたちの夏休みの生活を温かく見守りながら、安全で楽しい日々を過ごせますように、お声掛けいただきたく、引き続き、ご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。